

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-520	24-307	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Endogenous ethanol production in health and disease 健康と疾患における内因性エタノール産生		
<b>執筆者</b>		
Abraham S Meijnikman <sup>1</sup> , Max Nieuwdorp <sup>234</sup> , Bernd Schnabl <sup>567</sup>		
<b>掲載誌</b>		
Nat Rev Gastroenterol Hepatol. 2024 Aug;21(8):556-571.doi: 10.1038/		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
腸内微生物、内因性エタノール産生、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患、自己醸造症候群	38831008	
<b>要 旨</b>		
<p>腸内微生物叢は、循環系に拡散する微生物代謝産物を通じて、腸管外の遠位組織や臓器に代謝作用を及ぼす。腸管恒常性の乱れは微生物代謝産物の変化を引き起こし、血漿代謝物プロファイルの変動の半分以上は腸内微生物叢によって説明できる。エタノールはほぼ全ての個体の腸管で産生される主要な微生物代謝産物であるが、その過剰産生は代謝機能障害関連脂肪性肝疾患や自己醸造症候群といった病態と関連する。これらは肝臓のエタノール代謝能力が追い越される状態である。本レビューでは、腸管における過剰なエタノール産生の基盤となるメカニズムと、エタノールの肝臓および宿主代謝への病原性効果を媒介するエタノール分解の役割について述べる。最後に、腸内細菌による過剰なエタノール産生を標的とするアプローチについて述べる。</p>		